

相愛女子短期大学

研究論集

第36卷

創立100周年記念号

平成元年(1989)3月

相愛女子短期大学研究論集・相愛女子短期大学研究論集・相愛女子短期大学研究論集 総目次（自創刊号 至第三十五卷）

相愛女子短期大学研究論集

創刊号（昭和二十九年六月）

今小路 覚瑞	創刊の辞
石倉 小三郎	人間ベートトヴェンの一断面——不死の愛人——
酒井 諄	音楽美学の基礎付けへの一考察 ——「聴くこと」の意味——
沼波 守	悪七兵衛平景清
山本 捨三	漱石初期の浪漫主義と「夢十夜」の解釈
松永 大覚	仏教に於ける善の考察
海辺 忠治	エックハルト神秘主義的特質
荒井 貞雄	教育者の創造性と權威性
富田 朋介	血球鍍銀法に依る「進化再演説」の證明
塩野 サカエ	染色の芸術と実用
第二巻第一号（昭和三十年三月）	
沼波 守	牛若強盗退治 附り その遺跡 ——熊坂長範と藤沢入道とは同一人か——
田中 重太郎	枕冊子「時奏するいみじうをかし」の段に於ける本文校訂と語法
岡 邦俊	宗教の始源としての人間悪 ——無明と原罪とを中心として——
石倉 小三郎	マタイ受難案の構成一般
仲 真而	和讃に寄せて——伝統的音楽に潜むもの——
神田 美年子	丸打・平打両組紐の比較について
埴 雅寿	發育に及ぼすガラクトースの影響
富田 朋介	民族優生

第二巻第二号（昭和三十年十二月）

富田 朋介	民族優生（続）
山本 捨三	現代詩のイメージに関する一考察
松永 大覚	仏教に於ける悪の考察
酒井 諄	音楽美学に於ける形而上学的思惟の要請
海辺 忠治	宗教と科学の基盤
中村 その	手芸論
第三巻第一号（昭和三十一年三月）	
荒井 貞雄	道徳生活に関する分析的研究 ——高校生及小学生の比較——
岡 邦俊	宗教的実存について——人間悪の処理——
石倉 小三郎	モーツァルト概観
仲 真而	建旋と陽旋
山本 捨三	梶井文学の情念
神田 美年子	手工程について
埴 雅寿	ビタミンと酵素
西山 徳平	微生物法によるビタミンBの工業的製造について
第三巻第二号（昭和三十一年十一月）	
特輯 宗教と哲学・文学——	
岡 邦俊	宗教に於ける崇拜対象——神と仏との対比について——
松永 大覚	韋提希夫人に就いて
海辺 忠治	無の問題
石倉 小三郎	宗教音楽概観
沼波 守	普賢菩薩と性空上人 附II お竹大日如来の由来

目次

中野 恵海 丹羽文雄と親鸞——小説「青麥」以前——

第四卷第一号（昭和三十三年三月）

沼波 守 八百屋お七雑考

山本 捨三 戦後詩壇の動向

二十二 鉄玄 九條武子夫人——その短歌を中心として——

岡 邦俊 宗教の崇拜対象(一)——神と仏との対比について——

松永 大覚 涅槃経に現はれた阿闍世王

酒井 諄 音楽存在の時間的性格について

第四卷第二号（昭和三十三年十一月）

石倉 小三郎 モーツァルト概観(続)

酒井 諄 ミュージック・コンクレートに関する一考察

山本 捨三 現代詩成立の新運動

二十二 鉄玄 近世に於ける階級制度と農民の生活

中野 恵海 丹羽文雄と親鸞(下)

——小説「青麥」を中心として——

山本 登美子 服装史より——流行の変遷を裏付けるもの——

相愛女子大学
相愛女子短期大学 研究論集

第五卷第一号（昭和三十三年五月）

相愛学園創立七十周年記念号

今小路 覚 瑞 卷頭之詞

岡 邦俊 聖夢と宗教——宗教的聖者のみた夢——

松永 大覚 華嚴経の善財童子(求道の旅)

荒井 貞雄 現代教師像の研究(一)

石倉 小三郎 第九交響曲とファウスト

馬淵 卯三郎 平均率曲集ブレリユードの楽曲構造

塩野 サカエ 栄養私見

神田 美年子 ネットタイについて

山本 登美子 服飾と流行

△服飾の中の流行性と云う属性の占める位置▽

沼波 守 三勝半七の伝と文芸 その一

二十二 鉄玄 近世に於ける女性の地位に就いて

富田 朋介 Profile(プロフィール)

西山 徳平 酒粕の防腐作用について(第1、2報)

埜 雅寿 蛍光物質と其の利用

第五卷第二号（昭和三十三年十二月）

石倉 小三郎 第九交響曲解説

荒井 貞雄 現代教師像の研究(二)

中野 恵海 母子叙情小論

富田 朋介 文化

中村ソノ 芸能——技術——手芸に大切な手に就て

浜崎 弥市 合成繊維とその複合品の染色

第六卷第一号（昭和三十五年一月）

荒井 貞雄 初期宗教心の統計的研究

海 辺 忠 治 無と空に就て

松永 大覚 歎異鈔の信仰

富田 朋介 織維に就て

山本 登美子 服装史より——流行の変遷を裏付けるもの——

石倉 小三郎 第九交響曲解説(承前)

佐藤 允 彦 ショパン考

田中 重太郎 枕冊子本文語彙考証

第七卷第一号（昭和三十五年十一月）

卷頭言

岡 邦俊 「二種深信」に表現された宗教の本質

松永 大覚 道徳と宗教

荒井 貞雄 徳育場の研究(五)

酒井 諄 音楽の存在方式認識に関する一つの反省
 佐藤 允彦 ショパン論 (一)
 富田 朋介 生物の R. C. E. System に関して
 沼波 守 三勝半七の伝と文芸 (その二)
 山木 薫 京都市の組物業
 (書評紹介)
 荒井 貞雄 The Three R's Plus
 田中 重太郎 寐覚物語全釈
 馬淵 卯三郎 The Sense of Music
 第八卷第二号 (昭和三十六年六月)
 田中 重太郎 古典の味
 石倉 小三郎 ベートーヴェンのミサ・ソレムニス解説
 中野 恵海 椎名麟三論
 ——その信仰と文学——
 山本 登美子 デザインの創造——その方法論——
 馬淵 卯三郎 「D・スカルラッティ」ノート
 浜崎 弥市 反応性染料の染色機構
 第八卷第二号 (昭和三十七年一月)
 塩野 緑子 味の「素」
 松永 大覚 親鸞に於ける同朋主義
 富田 朋介 生命に関して (一)
 沼波 守 三勝半七の伝と文芸 (三)
 酒井 諄 標題音楽研究の草案のためのプログラム
 大橋 博 Allegro「ヴァイオリンとピアノのための」
 神田 美年子 女子高校生制服の時代的推移
 山本 富佐子 衣服の腕の前後運動に及ぼす影響についての研究 (一)
 佐藤 允彦 ポーランド音楽教育

絵 目 次

(書評)
 岡 邦俊 上田義文著「仏教における業の思想」
 第九卷第一号 (昭和三十七年六月)
 宗教する心
 岡 邦俊 欧米人の浄土仏教研究——浄土教の問題点——
 田中 重太郎 清少納言枕冊子の影響文献「尤のさうし」「絵本朝日山」
 「吉原大鑑」について
 富田 朋介 生命に関して (二)
 浜崎 弥市 ポリエステル繊維について
 佐藤 允彦 ショパン論 (二)——ポーランドとショパン——
 斎藤 百合香 ハイアミンの消毒効果について
 第九卷第二号 (昭和三十八年五月)
 第十卷第一号
 創立七十五周年記念号
 今小路 覚 巻頭のことば
 石倉 小三郎 ダンテ神曲の研究——未発表 抜萃——
 荒井 貞雄 ノート組織による学習指導に関する研究
 海辺 忠治 場所的論理と宗教について
 ——西田哲学宗教論の一考察——
 沼波 守 あれこれと綴り合せて 果談義
 田中 重太郎 源氏物語「花ちる里」の一本について
 岡 邦俊 欧米仏教会の現況と将来——欧米出張旅行報告書——
 東儀 祐二 欧米ヴァイオリン教育について
 ——欧米旅行で感じた事——
 2 Poems op. 32 (Srtabrin)
 Prelude Gis-moll op. 32
 (Rachmaninoff) No. 12
 酒井 諄 芸術教育のために

二五

——芸術教育の意味とその正しい位置づけのための省察
への序章——

大橋 博 Solège (No. 1)

佐藤 允彦 ショパン(三)——ポーランド時代——

津曲 滋子 ソレムのリズム理論による旋律線の研究

富田 朋介 最近の研究報告

塩野 緑 食品の色について

神田 美年子 婦人服の袖付線の解析

山本 登美子 色彩と衣生活——服飾に取扱われる色の流れ——

荒木 稔子 中学校技術・家庭科の教材観

加藤 訓男 ミシンの運動(一)——針の運動に関する力学的解析——

第十卷第二号 (昭和三十九年六月)
第十一卷第二号

外村繁論——その作品と信仰——

The Essentials of Aging Beauty in Japanese Culture

中野 恵海 初期の慶派について

橘 覚勝 ベートーヴェンのミサ・ソレムニス解説(承前)

久納 慶一 歌唱時の発音について

石倉 小三郎 オラトリオの「天地創造」

品川 三郎 生命に関して(その三)

木川田 誠 鼠肝臓の再生に及ぼすロイシン—イソロイシンバリンの拮

富田 朋介 抗作用の影響とエチオニンの影響との比較

西山 徳平 糖の食品への浸透について(第二報)

高小 原国彦 糖の食品への浸透について(第二報)

高小 島生子 糖の食品への浸透について(第二報)

山本 富佐子 PRÉT À PORTER
(書評)

岡 邦俊 増谷文雄著「仏教とキリスト教の比較研究」

荒井 貞雄 John P. Wynne, Ph. D. 著「Theories of Education」

田中 重太郎 仏教文学研究会編「仏教文学研究」(一)

第十一卷第二号 (昭和四十年二月)
第十二卷第二号

松永 大覚 無碍一道論

田中 重太郎 六人部是香の著書・手摺本について

久納 慶一 初期の慶派について(続)

酒井 諄 音楽を理解するということについて

神前 百代 Prokofeff, 5 Melodies op. 35 bis 1920 (1925)

神田 美年子 Sergei Sergeievitch Prokofeff

中野 慎子 ブラウス地と裏地の滑りについて

山本 登美子 服装史より

小原 国彦 糖の食品への浸透について(第三報)

高島 生子 ヨーロッパかけ足旅行日記より

嘉納 愛子 (書評)

橘 覚勝 老年学の動向

荒井 貞雄 今日のアメリカの高等学校

岡 邦俊 岸本英夫著「宗教学」

田中 重太郎 玉上琢弥著「源氏物語評釈 第一巻」

第十二卷第二号 (昭和四十一年二月)
第十三卷

草部 了円 鴨長明について

柿谷 雄三 藤井高尚の枕冊子研究について

小野 功龍 供養舞臺と法会形式の変遷に就いて

石倉 小三郎 ダンテ神曲解説序説

橘 覚勝 老人の座と行動——序説——

岡 邦俊 宗教に於ける「愛」と「慈悲」の本質

山野 正二 慣習国際法成立過程の一考察

荒井 貞雄 大都市中学校教官の指摘する非行に関する統計的研究(1)

富田朋介 人造りに就而

荒木稔子 西陣見歩記

山口光子 生命の源泉としての水

佐藤允彦 ショパン論 (4)

伊奈和子 教育・伝統・演奏

(紀行)

片岡みどり ソ聯の印象

神田美年子 パリ・モードあれこれ

(書評)

荒井貞雄 大学の講義と図書館との研究

橋本 覚勝 老化の心理

田中重太郎 飯田正一「歌集レノンパン島」

佐藤允彦 Arthur Hedley: Selected Correspondence of Fryderyk Chopin と邦訳について

第十四卷 (昭和四十二年二月)

森本茂 源氏物語における「常陸」について—風土的考察—

小野功龍 昭和四十一年度音楽学フィールドワーク報告

石倉小三郎 ダンテ神曲解説序説

橋本 覚勝 老年学 (Gerontology) の源流 (1)

永田貞雄 大都市中学校教官の指摘する非行に関する統計的研究 (2)

酒井千恵子 音楽大学生のヴィジョン—傾向性の調査—

塩野緑子 大阪を中心とした生鮮食品最近の出廻り状況と食経済についての一考察

山村裕子 炭化水素資化性菌による変敗油の利用に関する研究

水嶋志満子 アメリカの服飾教育

小原国彦 —カリキュラムに表われた特性について—

玉置美年子

神田美年子 Musikwissenschaftliches Institut へ Hochschule für

馬淵卯三郎

総目次

Musik について—ザールブリッケンの場合—

(書評)

中野恵海 西九四方著「島崎藤村の秘密」

第十五卷 (昭和四十三年二月)

富田朋介 思想

中野恵海 「破戒」論ノート

南部松雄 呉郡張氏における精神活動

手塚唯聰 日本の芸術論におけるレアリズムの萌芽

白取吉敏 合成繊維の発展と最新の展望

小原国彦 炭化水素資化菌に関する研究

山本富佐子 既成服の発展的段階における諸問題について

橋本 覚勝 老年学 (Gerontology) の源流 (II)

小谷泰造 英語教育の新しい試み

小野功龍 楽書古譜に見られる賀殿の演奏指示の比較検討

久保田敏子 雅楽曲の五線譜化に関する問題と試案

大橋 博 ポーランドにおける音楽専門教育の一考察

(書評)

田中重太郎 久松潜一著 年々去来

秦 博 竹田加寿男著 道徳の指導形態

第十六卷 (昭和四十三年十二月)

今小路 覚瑞 創立八十周年記念号

岡 邦俊 発刊にあたって

松永大覚 浄土真宗とキリスト教との比較研究

海辺忠治 悪人正機について

中野恵海 宗教の客観性について

森本 茂 遠藤周作論

寺内清之助 伊勢物語の歌の伝承性

明治百年国語教育思想の回顧

塩野緑子 緑茶の今昔

小野功龍 大法会における師子舞について

神田美年子 ヨーロッパの服飾教育

山本登美子 服装史より……(4)

中野愼子 着衣心理の分析

富田朋介 生体を作るもの

小原国彦 いかなご油の性状に関する一考察

村上裕子 最近の主婦の生活時間調査より算出した消費エネルギー量と推定労働強度について

山口光子 食物史上に於ける精進料理の意義

吉川知子 炭化水素資化性酵母の変敗油に対する挙動

橋川覚勝 老年学 (Gerontology) の生誕

秦博 無意図的教育の再検討

永田千恵子 道徳の時間実施に関する統計的研究

酒井諄 宗教音楽の概念並びに宗教と音楽との結合について

馬淵卯三郎 「Mit 17 hat man noch Träume」と「納骨利」の間で

第十七卷 (昭和四十五年一月)

田中重太郎 枕冊子前田家本の本文について

中西智海 親鸞における往生と実存

白取吉敏 織物の諸欠点について

小原国彦 炭化水素資化性酵母 K Y-11 に関する研究

玉置ミヨ子 G. GABRIELI の編曲について

辻井英世 J. S. Bach におけるフーガとは

中山明慶 隔りのリズムとターラ

大谷紀美子 「近畿ならびにその影響圏におけるわらべうたの音楽学的研究」について

酒井紀美子

大谷紀美子

西島恵子

上坂信男 森本茂著「伊勢物語論」を読んで

神田美年子 最上潤訳 自己革新 (マンネリを克服するための考え方) 原著 J. W. Gardner

第十八卷 (昭和四十六年一月)

三谷幸子 番外謡曲 聖光寺について

中野恵海 芥川龍之介「西方の人」注解 (一)

斎藤美夫 ドイツ文学と「若きヴェルテルの悩み」

久志本秀夫 アンコーナのチリアコ伝のために

久保田清二 構造から見たオルガンの歴史と特性

富田朋介 「生」の表現たる生命現象に就て

山本登美子 ファッションのコミュニケーション

林崎つゆ インドネシア料理についての一考察

田中昭子 Micrococcus lysodeikticus 細胞壁の化学構造

第十九卷 (昭和四十七年一月)

柿谷雄三 松平静翁の枕冊子研究について

小野功龍 「松尾寺に伝承される仏舞」について

中山明慶 J. S. Bach (1685-1750) の作品における拍子記号とテンポについて

大谷紀美子 朗誦の概念規定のための試論

西島恵子 欧米の消費者問題について

白取吉敏 炭化水素資化性酵母 K Y-11 に関する研究

玉置ミヨ子 炭化水素資化性酵母 K Y-11 に関する研究

坂下キク子 生命に関して

富田朋介

楠道隆 田中重太郎氏著「清少納言枕冊子研究」

第二十卷 (昭和四十七年十一月)

岡邦俊 真宗の宗教学的研究

吉野孝次郎 芥川龍之介「西方の人」注解 (二)

中野恵海 アンコーナのチリアコ伝 (1)

久志本秀夫

庄司 ユリ子	家政(学)における逆説的二重性
西島 恵子	式年遷宮における御木曳について
溝淵 淑恵	橘千蔭自筆「父枝直十三回忌追悼の文」について
塩野 緑子	大阪を中心とした生鮮食品最近の出廻り状況と食経済についての一考察(第二報)
林崎 裕子	
村上 繁子	
安東 千賀子	
青木 美子	
梅本 堯夫	ハウイング音楽テストVの標準化とその検討(その一)
酒井 諄	
馬淵 道江	ヴィオラ・ダ・ガンバについて
木下 邦夫	家庭用電気機器の電子化の現状について
山口 光子	ドリールとしてのカラメル

第二十一巻(昭和四十八年十二月)
創立八十五周年記念号

今小路 覚瑞	発刊の辞
岡 邦俊	宗教学の方法論と課題
仲 芳樹	芸道思想と芸術教育
吉野 孝次郎	芥川龍之介「西方の人」注解(三)
中野 恵海	逢坂山の歌枕考
森本 茂	
小野 功龍	「天台声明」と「西本願寺声明」との比較研究 I
大谷 紀美子	
中西 智海	親鸞の「往生」をめぐる問題点
久志本 秀夫	ヴェネツィアの起源 (1)
藤木 英雄	横川景三の人と作品
三谷 幸子	平家物語と修羅能について
塩野 緑子	家庭管理の立場から見た現在の公害汚染の諸問題について
山本 登美子	服装史より (5)
滝井 督三	形と色の連想についての実験的研究
小田 恭栄	
上林 恭栄	

目次

中山 明慶	音楽理論についての一考察
村上 裕子	澄汁における温度による鹹味の変化について
乾 隆次	教員採用テストの性格
田中 信昭	ナメコ粘質物中の多糖構造
山本 美国	人工汚染布への水分の影響について
鈴木 千恵子	青少年の非行化に関する研究
永田 千恵子	調理材料と酵素について
荒川 光子	音楽的知覚の意味と形成についてのアプローチ
山口 幸香	
新名 和子	

第二十二巻(昭和四十九年十二月)

岡 邦俊	真宗における往生浄土の目的
吉野 孝次郎	芥川龍之介「西方の人」注解(四)
中野 恵海	昭和四十九年度音楽学フィールド・ワーク調査研究報告
小野 功龍	遠江小国神社に伝承される十二段舞楽について
斎藤 美美子	——太平楽舞を中心として——
三谷 幸子	平家物語と修羅能について(二)
森山 和美	江戸時代の帯の研究
酒井 圭子	ハウイング音楽テストVによる
中川 圭子	音楽能力・学力の分析(その2)
神田 美年子	立体構成における構造線とデザインとの関係
神野 慎子	
岩佐 聡子	
小原 国彦	Utilization of oils by a strain of <i>Candida tropicalis</i>
玉置 三子	主な成人病に関連があると思われる食事について
村上 裕子	体育科成績の向上に関係する要因分析
長野 孝男	

永田 千恵子

学校令直後の女子教育論について

——大日本教育会雑誌に関連して——

第二十三卷

国文・家政学科篇(昭和五十二年十二月)

中西 智海

「自然法爾」消息の意味するもの

——親鸞における信の境位と歴史とのかわり——

吉野 孝次郎

芥川龍之介「西方の人」注解(五)

三谷 幸子

平家物語と修羅能について(三)

渡辺 幸子

健康法考現学——にんにくから紅茶ぎのこまで——

木下 邦夫

電気用品の法的規制——推移と現状について——

第二十三卷

音楽学部篇(昭和五十二年十二月)

仲 芳樹

芸道思想と芸術教育(その2)

辻井 英世

音楽における秩序と自由

——2つのSonataをめぐる——

馬場 健

明治音楽教育資料研究(その1)

下伊那郡郷土館の唱歌歌詞草稿について①

東儀 祐二

「ロン・ティボーコンクールとグラスゴウのバイオリン教授法セミナー」

ゴットフリートの「トリスタンとイゾルデ」

斎藤 芙美子

——プロローグについて——

ミストラのデスポテース国について

久志本 秀夫

教育史の基礎

乾 隆次

昭和五十年音楽学フィールド・ワーク調査研究報告

小原 功龍

盲僧琵琶の音楽

大野 耐子

国文・家政学科篇(昭和五十二年三月)

第二十四卷

国文・家政学科篇(昭和五十二年三月)

吉野 孝次郎

芥川龍之介「西方の人」注解(六)

中野 恵海

続 江戸時代の帯の研究——地質及色目文様について——

森山 和美

山村 上裕子

最近の女子学生の食物摂取状況について

第二十四卷

音楽学部篇(昭和五十二年三月)

仲 芳樹

音楽と有用性

乾 隆次

学校経営における冒険的試行

前田 至成

敦煌本アビダルマ文獻の研究 I

吉永 清子

ワルシャワ高等音楽院夏期セミナーに参加して

沢村 千栄子

アメリカに留学して

第二十五卷

国文・家政学科篇(昭和五十三年二月)

吉野 孝次郎

芥川龍之助「西方の人」注解(七)

中野 恵海

「讃岐典侍日記」参考文献

三谷 幸子

油化法人工汚染布の表面摩擦について

鈴木 国枝

物質文化史の課題とその研究方法

渡辺 正

第二部 食生活文化史の課題とその研究方法

第二十五卷

音楽学部篇(昭和五十三年一月)

東儀 祐二

バイオリン教育に関する考察

久保田 清二

現代オルガン音楽の技法

若林 正史

Traversflöteの運指法

瀧野 澄子

ソルフェージュ教育について

横川 美智子

その1 幼児のソルフェージュ教育のスタート

仲 芳樹

図書館視察報告

斎藤 芙美子

ゴットフリートの「トリスタンとイゾルデ」

久志本 秀夫

——リヴァアリンとブランシエフルール——について

オステリア・アンティカー——古代ローマの外港——

藤沢 実晟

後期西田哲学についての宗教的考察

海辺 忠治

創立九十周年記念号

第二十六卷

発行の辞

藤沢 実晟

発行の辞

海辺 忠治

後期西田哲学についての宗教的考察

久志本 秀夫

オステリア・アンティカー——古代ローマの外港——

藤沢 実晟

発行の辞

海辺 忠治

後期西田哲学についての宗教的考察

久志本 秀夫

オステリア・アンティカー——古代ローマの外港——

藤沢 実晟

発行の辞

海辺 忠治

後期西田哲学についての宗教的考察

乾 隆次 教育実践に関する若干の考察

中西 智海 釈尊と阿弥陀仏

前田 至成 減とニロダについて

小堀 久男 学生処分と法治主義——私立大学を中心として——

森本 茂 六人部は香書き入れの「建久五年本古今集」

藤木 英雄 愚中周及の人と作品

中野 孝次郎 芥川龍之介『西方の人』注解(八)

吉田 孝次郎 黒川本 讀岐典侍日記(宮内庁書陵部蔵)

三谷 幸子 家政学諸領域の統合化の試み

庄司 ユリ子 ——「生活人間」を中心として——

佐藤 允彦 ポーランド国立図書館所蔵のショパンのプレリュード(作品二十八 自筆譜の資料的研究)

大谷 紀美子 琉球舞踊・女踊りの特質

——「ながらた」の分析を通して——

久志本 秀夫 ミケロツツイとボンシニョーリの東方旅行

——特に一四九八年五月一八日付の書簡をめぐって——

永田 千恵子 学校令直後の女子教育論について(2)

——「女学雑誌」について——

山本 登美子 服装における社会背景への一考察

木下 邦夫 家庭用電気機器へのマイクロコンピュータ導入の背景とソフトウェアの現状

計測値からみたスカートパターンの適合性について

鈴木 慎子 昇華転写捺染に関する研究——昇華堅ろう度について——

池口 増枝 女子短期大学食物専攻の今後のあり方に関する一見解

浦上 智子 山田憲太郎の世界——その著書を通じてみた食品香料——

渡辺 正 *Candida tropicalis* OT-65 に対する塩高張が脂質形成に

小原 国彦 及ぼす影響

玉置 ミヨ子

目次

山口 光子 揚げ油に関するアンケート調査

第二十七卷 国文・家政学科篇(昭和五十五年二月)

小堀 久男 信教の自由と政教分離

——殉職自衛官合祀違憲判決をめぐって——

中野 孝次郎 芥川龍之介『西方の人』注解(九)

吉田 孝次郎 学校令直後の女子教育論について(4)

永田 千恵子 「助松屋文書」における冠婚葬祭料理

渡辺 正 ——江戸時代料理の復原とその栄養——

森山 和美 雑考

第二十七卷 音楽学部編(昭和五十五年二月)

酒井 諄 ヨーロッパの楽器博物館見聞記

斎藤 芙美子 ゴットフリートの「トリスタンとイゾルデ」

——トリスタンの少年期について——

森下 高治 青年の職業行動に関する研究

長野 孝男 女子学生の生活意識について(その1)

——特に音楽専攻の学生生活を中心として——

小野 功龍 フィールド・ワーク調査報告 住吉大社お田植神事につ

大谷 紀美子 て

第二十八卷 国文・家政学科編(昭和五十六年二月)

中野 恵海 外村繁「夢幻泡影」について

藤木 英雄 彦龍周興評伝

親鸞における「極楽」と「浄土」

「助松屋文書」における冠婚葬祭料理

——江戸時代料理の復原とその栄養——

中西 智海 大阪市中心部に勤めるサラリーマンの外食(昼食)

渡辺 正 実態調査結果とこれに対する栄養指導について

村上月佳子 *Basidiomycetes* (担子菌類) の多糖構造および多糖構造

田中 昭子 研究法について

三二

木下邦夫 家庭用電気機器の省エネルギー化の背景と現状について
鈴木国夫 ヨーロッパ研修旅行参加記

第二十八巻 音楽学部編(昭和五十六年二月)

久志本秀夫 古代イタリヤの道
森下高治 職業行動に関する一考察
——ホランド理論とSDS調査票について——

小野功龍 昭和五十五年度フィールド・ワールド調査報告
大谷紀美子 春日大社、住吉大社における社伝神楽について
酒井諄 音楽に関する社会人・学生の意識調査
山井 慧 民衆公教育成立過程への一つの分析視角
——カール・マルクスの民衆公教育理解——

前田至成 三彌底部(Samitiya)の業思想
——カール・マルクスの民衆公教育理解——

第二十九巻 国文・家政学科編(昭五十七年二月)

中野恵海 遠藤周作「アデンまで」論
蔭木英雄 『松山集』解釈と鑑賞
小堀久男 わが国における障害者と基本的人権
渡辺正 邦訳日葡辞書を通してみた安土桃山時代の食生活
鈴木国夫 昇華転写捺染に関する研究(Ⅱ)
池口増枝 ——ジャージ捺染布の染色堅牢性について——

木下邦夫 センサ電子レンジの自動調理におけるソフト機能の現状
永田千恵子 学校令直後の女子教育論について (5)

第二十九巻 音楽学部編(昭和五十七年二月)

大谷紀美子 舞踊のフレイジング——沖縄の舞踊の分析による——
斎藤美美子 ゴットフリートの「トリスタンとイゾルデ」
——騎士に登用されるトリスタン——

前田至成 敦煌本アビダルマ文献の研究——Ⅱ——
森下高治 職業行動に関する心理学的研究
——ホランド理論と選択にかかわる要因分析——

山村 慧 比較教育学の社会科学的前提をめぐる一考察(その1)
——ブライアン・ホームズの「問題接近法」解釈を中心にして——

横川美智子 オペラ「Halka」
小野功龍 「林歌」の歴史的推移について

相愛女子短期大学研究論集

小堀久男 第三十巻 国文・家政学科編(昭和五十八年二月)
——箕面忠魂碑事件を中心として——
中野恵海 国木田独歩「春の鳥」鑑賞
鈴木徳男 『統詞花和歌集』の一考察
——赤染衛門と和泉式部の入集歌めぐって——

森山和美 女性の婚礼服の変遷
中野恵海 体型と袖山パターンの関係について
鈴木徳男 乳化剤添加による Choux の検討(第一報)

藤野慎子 体型的関係について
山田公光 女性と袖山パターンの関係について

丸山純子 女性と袖山パターンの関係について
山田純子 女性と袖山パターンの関係について
菊田徹子 女性と袖山パターンの関係について

相愛女子短期大学 研究論集

第三十巻 音楽学部編(昭和五十八年二月)

徳末悦子 中華民国の音楽事情
横川美智子 オペラ「Halka」(続き)

大谷紀美子 第十三回国際音楽学会(SIM)の報告
滝野澄子 「ボワティエ夏期音楽大学に参加して」
稲垣孝子 Jacques Jansen のレッスンを受けて
沢村千栄子 ルチエルの夏

長野孝治 女子学生の生活意識について(その2)
——相愛大学、相愛女子短期大学学生の学園生活に対する意識の比較——

山村 慧 比較教育学の社会科学的前提をめぐる一考察(その2)

——ブライアン・ホームズの「問題接近法」解釈を中心にして——

森下 高治 企業従業員の職業意識に関する研究

——役職者と非役職者の比較——

斎藤 美美子

「トリスタンの刀札」における

久志本 秀夫

ゴットフリートの文学批評について

蔭木 英雄

ダンテ・釈道空比較論序説

鈴木 徳男

中世初期緋紳漢文学概観——菅原為長を手がかりに——

森山 和美

『新勅撰和歌集』賀部をめぐって——

松本 和子

女性の婚礼服の変遷

入田 昭子

学校英語教育へのセンチンス・コンパインニング導入の検討

村上 裕子

サルノコシカケ類の化学成分および薬理作用について

香月 佳子

七年間の栄養調査からみた学生の食物摂取状況とこれに伴う問題点について

木下 邦夫

ムーソライト計画の影響下における、ルーム・エアコンデ

第三十一卷

インヨナーと電気冷蔵庫のエネルギー効率の推移

大谷 紀美子

音楽学部編(昭和五十九年二月)

小野 功龍

音楽学フィールド・ワーク調査報告

高橋 滋子

左右両部における「還城策」

ビエルベルナック

四つの弦の「幻想曲」

伊奈 和子

フランスス ブーランクと彼のメロディー その1

山田 健司

一九八三年のバイロイト音楽祭

総目次

イタリア留学研修報告

斎藤 達男 スイス・ジュネーブ海外研修を終えて

若林 正史 東西有漏知考

長野 孝男 音楽学部学生の学園生活の意識と余暇活動について

滝野 省治 職業行動に関する研究

森下 高治 ——志望職業にみるSDS結果と選択要因の特徴——

山村 慧 ——異文化間理解と教育について——

山田 耕吉 ——国際研究会からの提議と報告——

相愛女子短期大学研究論集

第三十二卷(昭和六十年二月)

鈴木 徳男 『統詞花和歌集』四季部の配列構成について

永田 千恵子 高等女学校規程から高等女学校令に

権藤 良子 相愛女子短期大学生における朝食・睡眠・脈拍についての意識調査結果からみた一考察

庄司 ユリ子 新しい家政学・家庭経営学の研究(その一)

——心理学・「臨床の知」の導入——

玉置 ミヨ子 高速液体クロマトグラフィーによる微生物中のトコフェ

戸川 成代 ール定量に関する一考察

鈴木 国夫 染色布の水分子と色の変化

藤田 公子 女子短大生の自己概念と衣服デザインの嗜好について

第三十三卷(昭和六十一年二月)

紅 煤 英 顕 親鸞と蓮如の往生思想

小堀 久 男 現行家族法における若干の問題点

北谷 幸 冊 三条西公条『吉野詣記』(翻刻・校注)

鶴崎 裕 雄 女性の婚礼服の変遷

森山 和美 ——統 明治、大正、昭和時代——

松本 和子 ESLライティング能力の統語的指標について

総目次

庄司 ユリ子 新しい家政学・家庭経営学の研究(その二)

——新しい家政学のパラダイムとしての「ユング心理学」——

第三十四卷(昭和六十二年三月)

小原 国彦 酵母菌体食糧化の経緯と未来食品開発への一展望

木下 邦夫 ヒーターレス・ヒートポンプ方式暖房について

中野 慎子 ブラジャー着用における胸部形態について

依藤 里子 バッハのA6つのコラールV演奏のための一考察

権藤 良子 相愛女子短期大学生の健康意識調査結果からみた一考察
行為の共同化から対象の共同化へ

——生後十一〜二十カ月における乳児Nの“人”としての成長——

松本 和子 プロセス重視のライティング研究について

土井 順一 近世佐賀の芸能興行 (1)

——歌舞伎・人形浄瑠璃を中心として——

第三十五卷(昭和六十三年三月)

内山 生 糸のループ形態についての一考察

藤田 公子 女子学生の被服行動と社会心理的特性との関係

水野 浄子 安定同位元素¹⁸O₂を用いた極性ミコール酸生合成の研究

松本 和子 Second Language Classroom Research に関する一考察
——Diary Study を中心に——

山田 由美子 *Othello: The Epithalamium of Blackness*

吉村 秀幸 「言語社会学における言語類型」に関する覚え書き

依藤 里子 相愛女子短期大学学生の音楽に関する意識と実態調査につ
いて

寺田 友子 住民訴訟からみた補助金交付

研 究 論 集 編 集 委 員

委員長 土 井 順 一
(国文学科)

田 中 昭 子
(一般教育・教職)

山 田 由 美 子
(英米語学科)

水 野 浄 子
(家政学科食物専攻)

内 山 生
(家政学科被服専攻)